

要請番号 (JL02418B24)

募集終了



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
ラオス	C108 土壌肥料		個別	交替 2代目	2年	・ 2019/1 ・ 2019/2 ・ 2019/3



【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

農林省

2) 配属機関名 (日本語)

ルアンパバン農林短期大学

3) 任地 (ルアンパバン県パクスアン村) JICA事務所の所在地 (ビエンチャン特別市)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (飛行機+バスで 約 1.5 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

1989年に設立された学生数約560人の短期大学で、3年間の通常コースと、2年間の社会人向けコースがあり、栽培科、畜産養殖科、農業経営科がある。教員数は約110人。1990年代から2000年頃にかけて協力隊派遣実績があり、2016年6月からは前任者が派遣されている。他、外国からの援助として、近年スイスにより、学費支援や教室、教材整備の支援が行われている。年間予算は約2,200万円(職員給与含む)。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

ラオスは国民の約7割が農林業に従事しており、村落部ではその割合はさらに高い。そしてその多くは貧困農家で、村落住民の基礎教育の立ち遅れや、土壌侵食の影響、並びに資材不足等に起因して生産性と品質が低いため、村落住民の生計向上を目指した対策を進めることが課題となっている。これに対処するため、配属先では校舎を増築し、カリキュラムの整備とともに、実習機材や学内にある約1.5ヘクタールを使ったフィールド実習、ルアンパバン県や近隣県の郡役場・農林局職員などへのブラッシュアップ教育なども積極的に行なおうとしているなかで、教員のレベルアップに加え、土壌分析の基礎知識と実習経験を身に着けた人材を育成するために、青年海外協力隊(JV)による支援が求められている。JVは栽培学科に所属となる。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

- 1.年12回実施される3時間/コマの土壌分析実習授業(生徒40名、5グループに分かれて実施)を同僚教員と分担すると共に、よりわかりやすい実習授業となるよう、改善を進める。
- 2.学内で行う土壌改良のフィールド実験コンテストにおける学習意欲と効果が高まるよう、教員及び学生に助言する。
- 3.同僚教員との意見交換を通じて、ラオス国内(特に山岳丘陵斜面)で実践できるような土壌肥料改良方法を考え、教員及び学生に紹介する。

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

簡易PH計1台、簡易デジタルマルチメーター[pH温度肥沃度]、インキュベータ、マッフル炉、ドラフト、蒸留装置、スターラー、顕微鏡1台、デジタル秤1台、シェイカー1台、土壌分析実習教室、執務机

4) 配属先同僚及び活動対象者

- ・ 副校長(50代男性、博士号取得)

- 栽培学科
- ・学科長(学士、20年、40代)
 - ・教員12名(準学士および学士、5-20年、20-40代)
 - ・土壌研究室担当職員3名(30-50代、学士・修士、経験5-20年)
 - ・受講する学生、1-2年生、男女40人

5) 活動使用言語	6) 生活使用言語	7) 選考指定言語
ラオ語	ラオ語	

【資格条件等】

[免許]：（ ）	[学歴]：（大卒）農学 備考：短期大学で活動のため
[性別]：（ ） 備考：	[経験]：（ ） 備考：

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]：（熱帯モンスーン気候） 気温：（10～35℃位）	[電気]：（安定）
[通信]：（インターネット可 電話可）	[水道]：（安定）

【特記事項】

都市部に比べて不便な村落部に住み活動するため、地域住民との友好関係を築きながら環境に順応して生活することが求められる。ホームステイの可能性もあり。